

# 月刊西谷会計

平成29年1月号



## 【所長のDVDコレクションより～ヤクルト 松園尚己氏～】

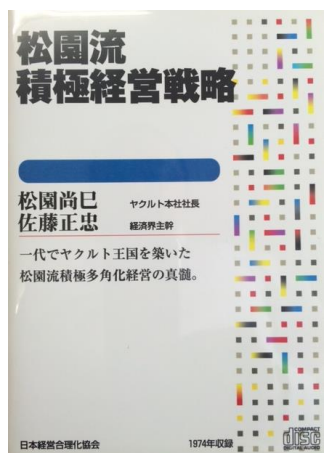
本日はヤクルトを国内最大手のみならず、世界的企業に育て上げた松園尚己(故人)さんです。前回に引き続き、このビデオも1974年収録の古いものとなりますが、人手不足の今日につながる話があるので紹介します。

松園さん曰く、知名度に劣る会社は、人を募集してもいい人材が集まるわけもない。他社よりもできる悪い労働者を使うのに、賃金は他社と同じ、もしくはそれ以上の賃金を払って事業をしなければならない宿命である。もともと業界トップに負けているのに、更に悪い条件で勝負しなければならないわけで、まともに戦ったら勝てるはずがない。

松園さんは、家庭の主婦を使えばいいことに気づいたそうです。ところが当時、配達労働は劣等感を味わう職業だったようで、配達労働者は社会的地位の低かった工場労働者よりも更に下に見られていたそうです。そこで、ヤクルトを配達する人に対して、職場に出てもらうための啓もう、責任感・義務感の啓もう活動に励むようになります。松園さんは、配達労働者、外交員と呼び捨てにされるような環境にした責任は経営者にあると考えました。名称をセールスマンに置き換え、名称を変えるだけでは質の良い人が落ち着くはずもないので、優秀な人が安定して定着するように相当な投資をしました。例えば、当時、牛乳の受け箱は木だったので埃が貯まりました。そこでプラスチックの衛生的なものに変えました。また、当時のお金で5億円投資して、最高のデザイナーに依頼して服をつくって、服装もきれいになりました。彼女たちが人の目に映る姿から「配達屋」という言葉が出ないようにする、そうすることで彼女たちの精神的苦痛を軽減し、定着率を高めようとしたのです。

当時の経営者は、彼女たちが一日4時間しか働かないからアルバイト扱いをしてアルバイト並の給料しか渡しませんでした。しかし松園さんは、正業として労働しているのだから正業にふさわしい給料を渡すべきと説きました。安易な値上げをしないで十分な給料を払うために、生産性を上げ、能率を高めるように努めました。

松園さんは、ヤクルトスワローズの買収についても述べています。当時、いろんな会社が福利厚生目的で温泉旅館を全国各地につくったそうです。旅館一つあたり2億円で、維持するために毎年2千万円の維持費が旅館一つあたりかかったそうです。門限があったり気を使ったりで利用率も高くない、これで本当に福利厚生になるのかと、松園さんは常々考えていたそうです。野球は国民的スポーツで老若男女問わずみんなで楽しむことができる。だから球団を買ったのだとか。広告宣伝とよくいわれるがそんなことはない。というのも、ヤクルトが勝ったら、名古屋でも阪神でも東京でもヤクルトが売れなくなるから球団を買うのは止めてくれとよく言われたそうです。



## 【所長の本棚より～となりのイスラム～】

本日紹介するのは「となりのイスラム」、現代イスラム地域研究を専門としている大学教授、内藤正典氏の著作です。ともすればIS(イスラミック・ステート)を想像して、イスラム教に恐怖感を持つ人も多かもしれません。本書は、実際にイスラム圏で生活し研究してきた著者が、イスラム教についての正しい理解を目的に執筆した本です。日本人が持つイスラム教に関する疑問、例えば、一夫多妻制のことやイスラム金融、報復の正当性や同性愛の是非などのついて、わかりやすい言葉で書かれています。

世間一般の報道では、イスラム圏は女性の権利を認めない女性蔑視なイメージを強調しますが、著者曰く、さんざん女性の性を商品化してきた欧米諸国に女性の人権を語る資格があるのかと疑問を呈しています。体を見せるのが恥ずかしいからヴェールで隠すのであって、露出が多ければ女性が解放されて自由になるという考え方はただのセクハラだとも言っています。

一夫多妻については、実はコーランには「ただし孤児たちの案ずるならば」の前置きがついているそうです。つまり、夫を亡くした子連れの子の未亡人のことなのではないでしょうか、日本ですと戦後に出征で夫を亡くした戦災未亡人を引き取るイメージなのかもしれません。

イスラム教のモスクは単にお祈りの場所であって、キリスト教の教会のように、神父や教区はないのだそうです。キリスト教では中世に教会が強大な権力を持ち、それに抵抗して宗教改革が起きました。一方、イスラム教ではモスクが信者を管理するわけでもなく、信者は直接神と繋がっているのだそうです。

イスラム教の人口は15億人、近い将来世界の3人に1人がイスラム教徒になるといわれています。この本では、キリスト教的価値観の押し付け、不寛容では世の中は平和とは程遠い世界になると伝えていきます。



## 【夏子の部屋】

あけましておめでとうございます。本年もよろしく願い申し上げます。2017年は酉年です。楽しく健康な一年になりますように！！

昨年を振り返ってみると、とても良い年だったな—と思います。「申年に贈られた下着を身に付けると元気になる」等の言い伝えを知り、赤いパンツをおねだりして無事ゲット。履いてみたらおへそまであり馬場さんの様になった事も良い思い出です。

年末になるとその年に流行したものを「今年の〇〇」と言って発表するのがマスコミでは恒例になっていますね。

「2016今年の流行語大賞」としてユーキャンが発表したのは、大賞が「神ってる」でした。どうも私は流行について行けてなかったようです。

「2016今年の漢字」として日本漢字能力検定協会が発表したのは、一位が「金」でした。なかなか読みにくいです。いつもは何が選ばれるかな—と自分でも予想してのですが、忘れていました。予想もしないで選ばれた漢字を見てもなんにも面白くありません。感想は「ふーん。」てなもんです。もっと漢字—文字に情熱をかけるべきでした、残念です。

そして、わたしが一番興味をもったのは「2016今年の一皿」です。そんなの毎年やってたっけ、とまず思いました。ですが大賞に選ばれたのは「パクチー料理」でした。

これには納得です。新語流行語漢字にはついて行けてなかった私ですが、パクチーは知っています。テレビでも何回も取り上げられました。好きか嫌いかが別れるくせの強い葉っぱの様ですが、好きな人にはたまらぬ美味しさで山盛りの葉っぱをワシワシ食べています。見るたびに、私は好き派なのかそれとも嫌い派なのかどっちだろう？あー、食べてみたい。と思うのです。

そうなのです、実は食べたことがないのです。買って食べて見ようと思うのですが売ってるところを見たことがありません。青森市では売ってないのでしょうか？

都会に行った折にパクチー専門店に食べてみようかとも思いますが、もし私が嫌い派の人だった場合、拷問じゃあないでしょうか？勇気が出ません。

「2017今年の一皿」が発表されるまでにはパクチー料理を食べる、というのを酉年の最初の目標にしま—す。



西谷会計事務所

〒030-0821 青森市勝田2-6-18

<http://www.248nishiya.com>

TEL 017-774-2315

E-mail [nishiya-kaikei-jimusyo](mailto:nishiya-kaikei-jimusyo@tkcnf.or.jp)

[@tkcnf.or.jp](mailto:nishiya-kaikei-jimusyo@tkcnf.or.jp)